



第4号

若松海保だより



新年のご挨拶

新年明けましておめでとうござい
ます。友の会の会員の皆さまにおか
れましては、素晴らしい年をお迎え
のことと思います。若松海上保安部
長として着任後、初めて「若松海保
だより」で皆さまに新年のご挨拶が
できることを心から喜ばしく思いま
す。着任後から、市民の安全安心を
守ることが重大な使命と考え、関係
機関との連携強化や市民の皆さまに
我々の仕事を知っていただくための活
動に取り組んで参りましたが、昨年
では、多方面から当部業務への応援
や感謝の言葉を頂戴する機会が増
えるなど、より一層地域に感謝され
る海上保安部でありたいと強く感じ
ております。まもなく着工が予定さ
れている響灘洋上風力発電施設の建
設では、付近航行船舶の安全確保が
大きな課題とされておりありますが、当
部全体で一丸となつて、これら課題
にも取り組んで参りたいと思ひます。
今年も恒例の洞海湾クルーズの開
催も考えておりますので、引き続き
当部への厚いご支援をよろしくお願
いいたします。

若松海上保安部長 安里匡

一 白洲灯台フェスティバル 小倉城

10月30日 古来より海の難所であった
若松沖の響灘にある白洲(岩礁)に灯台
の建設を始めた**岩松助左衛門翁**の没後
150年を偲んで小倉城にてイベントを
開催しました。

岩松翁の功績は戦前には小学校の教科
書に掲載されており、出身地の小倉北
区長浜地区では郷土の偉人として顕彰
会が設立され、小倉城内には岩松翁頭
彰櫓(記念塔)がを建立されておりま
す。また、北九州市立自然史・歴史博物館
では岩松翁ゆかりの書物や品々が常設
展示されています。



岩松助左衛門翁頭彰櫓(小倉城内)



灯台写真コンテスト表彰式(小倉城内)

白島



響灘の難所(岩礁)にて船舶の安全を見守る
白洲灯台(明治6(1873)年建立)

二 若戸大橋開通60周年記念協賛行事

10月23日（若戸大橋開通60周年記念行事に協賛して、当部では他の協賛企業と共に若松駅南側の公共岸壁において様々なイベントを開催しました。当日は晴天にも恵まれ、大勢の市民に楽しんで頂き、大盛況なイベントとなりました。

一 巡視艇ともなみ一般公開

千四百人以上の市民が乗船され、航海計器や救助機材を見学されました。

二 ヘリコプターによる海上救助訓練

北九州航空基地に配備されているヘリ一機が会場へ飛来して機動救難士により海上の溺者を吊り上げて救助する訓練を披露しました。

三 展示ブース

制服試着、子供向けの仕事体験、海保グッズ販売、採用試験案内などを行いました。

四 一日海上保安官

管内企業の社員を一日海上保安官に任命して、釣り人や海事企業に海難防止を呼び掛けました。

その他、ウォーキングのスタート地点（若戸大橋下）にて灯台パネル展、若松図書館では海図の展示会も併せて実施しました。



三 北九州市との包括連携協定等

令和3年に締結した北九州市との「包括連携協定」に基づき、**社会教育、関係機関との連携強化**など様々な取り組みを実施しています。

「夢授業」北九州キャリア教育研究会主催
 当部では様々な職業に就く社会人が小中高校で「仕事のやりがい」や「働く喜び」について生徒と対話する夢授業に参加しており、今年度は34校を訪問する予定です。



11月は、八見小・池田小・木屋瀬小・萩原小・黒畑小・皿倉小・千代小(八幡西区)、祝町小(八幡東区)、あやめが丘小・大谷小(戸畑区)、江川小・二島小(若松区)の12校を訪問。



9月16日 職場見学(若松保安部)
 四大学法学部合同ゼミ(北九州市立大・熊本大・広島大・関西学院大)の1環として、大学生40名が訪れ、巡視艇体験航海、業務説明などを実施しました。その結果、数名の学生が学歴を活かせる職業として興味を持ち、来年の海上保安大学校初任科(大卒対象)を受験する意向を示し、また、教授から職場見学会の継続実施の要望を受けるなど好評を博しました。



10月4日 スケッチ大会
 北九州商工会議所から「あなたの若松作品コンクール」に応募するため、若松天竺園の園児に若戸大橋を背景に巡視艇をスケッチさせたいと協力の依頼がありました。当日は園児39名が訪れ、スケッチ後に巡視艇を見学しました。



10月12日 戸畑警察署と合同巡回
 戸畑警察署長が巡視艇やまざくらに
 同乗のうえ、戸畑区沿岸部をパトカー
 と巡視艇により合同巡回をしました。
 市民の安全を確保するため今後も連携
 を継続することで認識が一致しました。



巡視艇やまざくら船内



若松保安部長と戸畑警察署長の結束

11月15日 八幡西区国際化対策・沿
 岸警備協力会総会
 当部、税関、八幡西警察署などの取締
 り機関と八幡西区内の輸出入事業者
 が密航や密輸など水際対策を連携す
 るための会議にて、当部警備救難課長
 が出席して海上保安庁の取締り状況
 を発表して事件を認知した際の情報
 提供を呼び掛けました。



海上保安庁の密輸・密航取締り状況を発表

12月13日 九州運輸局との合同点検
 国土交通省が主導する、年末年始の輸
 送等に関する安全総点検」として、当部
 と九州運輸局が合同で市営若戸渡船の
 救命設備などを点検しました。



市営若戸渡船



救命設備の点検

四 海上防災・海洋環境保護

管内の臨海部には油類、ガス、化学薬品などの危険物をタンカーで荷役する事業所が数多く所在しています。港内の安全を確保するため、「港則法」の規定により船舶が港内で危険物を荷役する場合には、その都度「関門港長」（若松海上保安部長に権限委任）の許可が必要となります。当部では危険物荷役の安全を確保するため、タンカーと危険物専用岸壁の防災設備などを定期的に点検しています。



11/24 北九州エル・エヌ・ジー



12/7 日本コークス工業北九州事業所



12/13 三菱ケミカル福岡事業所



12/1 ひびきエルエヌジー基地



第七管区海上保安本部長賞作品



表彰式

12月10日 図画コンクール表彰式
海上保安庁では、将来を担う小中学生が海洋環境について考える機会として海への関心を高め、海洋環境保全思想の普及を図るため、未来に残そう青い海・図画コンクール」を毎年開催しています。管内では仲川璃子さん（則松小1年）が第七管区海上保安本部長賞を受賞されました。

若松港(関門港若松区)は、ご承知のとおり、かつては筑豊産石炭の積出し港として繁栄して、昭和10〜20年代には横浜や神戸を抜いて出入港隻数日本一となった輝かしき歴史があります。水深が浅い洞海湾は海域が狭く、船舶が相互に行き交うことが困難なことから、船舶の交通を整理するため、ブイ(浮標)により航路を設定して、時間帯により出航と入航の信号を切り替える「**二方通航**」方式を採用しています。

法的には、「港則法」の規定により、洞海湾に出入港する船舶(総トン数三百トン以上)は、**航路を航行する、関門港長の信号に従う、入出港予定を通報する3つの義務**があります。信号所は、洞海湾入口(港口)、戸畑区牧山、若松区二島の三か所に設置され、信号は電光表示板に表示されます。

昭和期には、響灘若松防波堤(洞海湾入口)、**若戸大橋の橋台(若松側)**、戸畑区牧山、八幡西区道伯山(黒崎城址)の四か所に信号所が設置されており、ミニカム(白色の点滅ライト)を信号としていました。



<北九州市役所HPから引用>

若松中央信号所
S37(1962)~S59(1984)年まで開業

昭和期:若戸大橋の橋台(若松側)にあった信号所(現在は撤去されています。)



電光表示板に「I」を表示
→入航(港)可 (*出航(港)不可)

現在:牧山信号所(戸畑区)

管制信号 : ミニカム (白色の点滅ライト)

管制信号 : I - 入航 (IN)
(電光表示) 0 - 出航 (OUT)

編集後記

開通60周年を迎えた若戸大橋の思い出は、昭和45年の幼少時に歩いて渡り怖かったこと、次にバブル経済全盛期の平成2年4月1日(当時24歳)四車線化の日は大分から若松へ異動となって新任地へ向かう高揚感と家財一式を満載したマイカーで快走したことを覚えています。平成2年当時は保安部庁舎前の「若松南海岸通り」には警察艇、曳船、作業船などが係留され、水上警察署、税関、市港湾局、船会社の事務所や木造倉庫、港湾労働者向けの食堂などが建ち並んで雑然とした港町でした。また、若戸渡船の利用客が多く、若松の表玄関であった往時の面影も残っていました。

先日映画「網走番外地 悪への挑戦」を観る機会があり、主演の高倉健が昭和42年撮影当時の海岸通りを歩き、沖に停泊する大型貨物船の間を木造の小舟が行き交うシーンを目にして、「昭和」を懐かしく感じました。現在の海岸通りは巡視艇のみが係留され、古い建物が一扫されて情景が一変しました。代わりにオシャレな遊歩道が整備され、12月の今は華やかなイルミネーションに彩られて観光地化しており、若松区民が誇れる街並みとして次世代へ引き継がれることでしょう。

次長 倉田主税